

経営比較分析表（令和2年度決算）

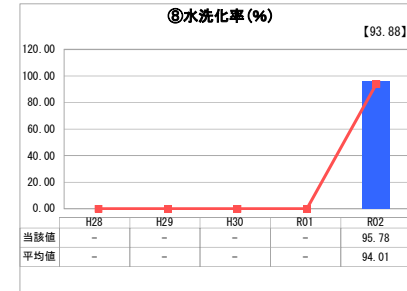
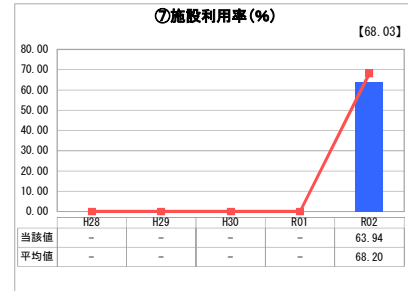
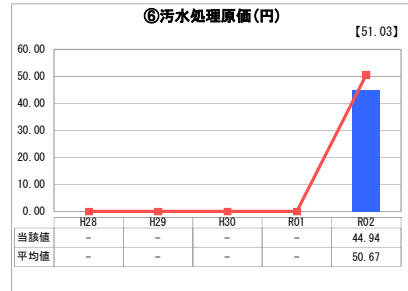
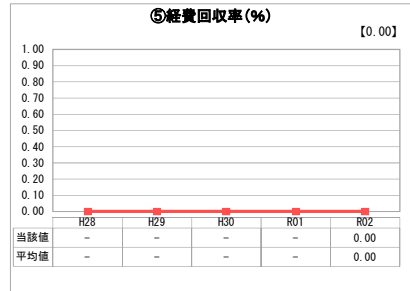
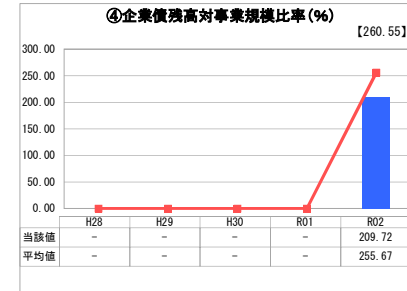
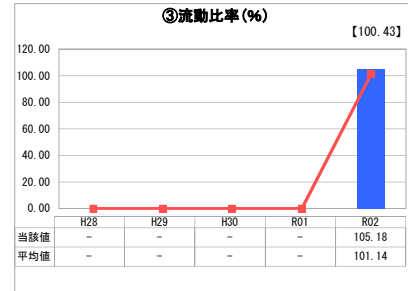
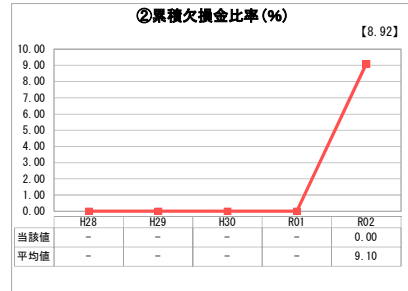
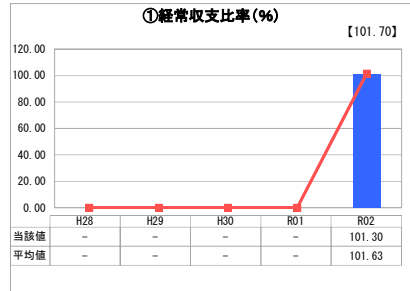
千葉県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	流域下水道	E1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	85.07	64.42	108.24	0

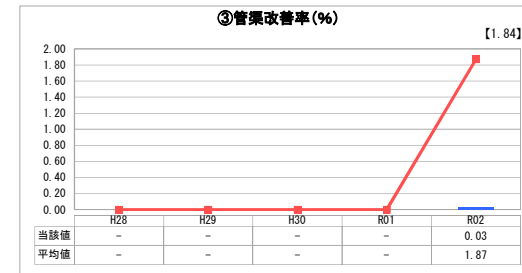
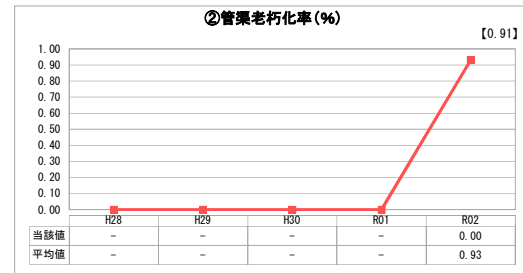
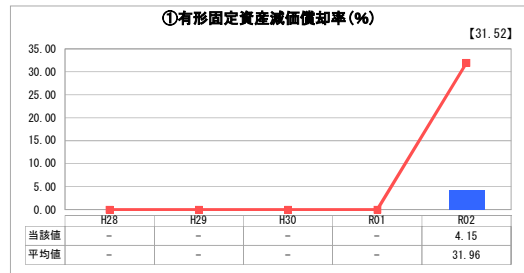
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,322,897	5,157.57	1,225.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,151,855	366.85	8,591.67

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

千葉県は、令和2年度から地方公営企業法の財務規定を適用している。
 「①経常収支比率」は、100%を上回っており、安定している。
 「②累積欠損金比率」は、0%であり、健全な経営状況といえる。
 「③流動比率」は、100%を上回っており、支払能力に問題はない状況である。
 「④企業債残高対事業規模比率」は、企業債残高は緩やかに減少傾向であり、平均値を下回っているが、老朽化が進む施設の本格的な改築更新に備え、適切に起債の管理を行っている。
 「⑥汚水処理原価」は、包括的民間委託を導入するなど経費の削減に努めていることもあり、類似団体の平均値を下回っている。
 「⑦施設利用率」は、類似団体の平均値を下回っているが、流入水量は増加傾向と見込んでいる。
 「⑧水洗化率」は、流域市町の面整備等の進捗により、平均値を上回っている。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」については、令和2年度から公営企業会計に移行したことに伴い、過去の減価償却費が反映されない計上方法となっていることから、数値が低い状態となっている。
 「②管渠老朽化率」「③管渠改善率」については、法定耐用年数を経過している管渠はなく、老朽化の進んだ管渠が少ないため平均値より低い値を示しているが、今後10年間に耐用年数の経過により更新時期が到来する管渠が存在することから、更新が必要なのは適切に整備していく必要がある。

全体総括

各経営指標の状況から、現在の経営状況は健全であるといえる。
 今後は、耐用年数を経過して老朽化する施設が出てくることから、投資計画等と併せて計画的に更新を行っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。